

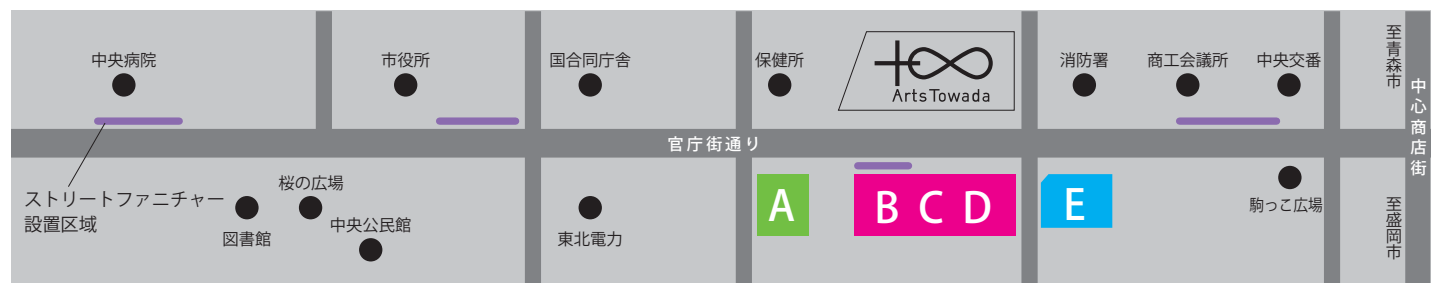
# Arts Towada

特集 2009.11.1

## 来春オープン予定「官庁街通り野外芸術文化ゾーン整備」概要について

市では、より魅力的で美しい官庁街通りの景観をつくりだすとともに、未来へ向けた新しいまちづくりの一環として、野外芸術文化ゾーン（通称：Arts Towada）整備事業に取り組んでいます。

Arts Towadaは、平成17年度から5か年計画で段階的に整備しており、平成20年4月には拠点施設「十和田市現代美術館」が開館しました。昨年度から現代美術館南側の敷地を活用し、美術館との関連性を考慮に入れ、大型アート作品を配置した公園的要素のある「アート広場」に着手しています。さらには、官庁街通りを広く美術館と見立てるため、歩道に「ストリートファニチャー」（アートベンチ）の設置を行います。Arts Towadaは、平成22年春にグランドオープン。官庁街通りに、国内外のアーティストが手掛けた新たなアートゾーンがお目見えします。



## ■作品介绍（参考画像）



## ストリートファニチャー



### エルヴィン・ヴルム



参考画像《ファット・コンバーチブル》、2005、ミクストメディア

1954年オーストリア生まれで、ウィーンを拠点に世界的に制作活動を行うヴルムは、一貫して彫刻の概念をユーモラスに拡張する作品を発表しています。アート広場に展示される《ファット・ハウス》《ファット・カー》は、私たちの暮らしに欠かせない「家」や「車」が、ぶくぶくと太った作品です。このようにヴルムの作品は、私たちの常識や概念に疑問を投げかけています。

### インゲス・イデー



作品イメージ画像  
《ghost》 ©ingesidee2008

1993年にハンス・ハマート、アクセル・リーバー、トマス・A・シュミット、ゲオルグ・ツァイの4人のアーティストで結成したユニット。ドイツを中心に世界各地の公共空間でユニークな彫刻作品を発表しています。つねに作品の置かれる場所の特徴を読み込み、ユーモアのある作品を制作しています。高さ8mの《ゴースト》はArts Towadaの新しいシンボルとなるでしょう。

### マイダー・ロペス



作品イメージ画像 ©Maider López

1975年スペイン生まれの若手アーティスト。2006年ヴェネツィア・ビエンナーレに参加するなど今後の活躍が期待されています。公共空間で数百人が参加する大規模なイベントから、美術館での個展まで多岐に渡る活動をしています。一貫してカラフルな空間と関連性をもつ表現が大半を占めています。アート広場の作品は、官庁街通りの床パターンから着想を得た作品となります。

### 草間彌生



作品イメージ画像  
《愛はとこしえ十和田でうたう》  
写真提供：草間彌生スタジオ

前衛芸術家、小説家。幼少より水玉と網目を用いた幻想的な絵画や彫刻を制作しています。1957年単身渡米、独創的な作品と活動はアート界に衝撃を与えました。帰国後も全世界を飛び回る、日本を代表するアーティストの一人です。アート広場では、今までにない大規模な草間ワールドが展開されます。

### R&Sie(n)



参考画像Hypnosis Chamber  
Mam, Modern Art Museum, Paris, 2005

フランソワ・ロッシュ（1961年フランス生まれ）、ステファニー・ラヴォー（1966年サン・ドニ生まれ）、木内俊克（1978年生まれ）らによる建築事務所。ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展に参加したほか、世界中で個展を開催。独自の建築プランを発表しています。彼らは空気、水、土といった自然、そして人の欲望や感情の関係性を先端科学を用いて思考し、多様な作品を展開しています。

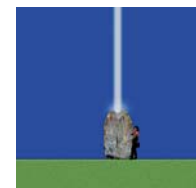
### マウントフジアーキテツスタジオ



作品イメージ画像 《in flakes》  
©MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO

1973年生まれの原田真宏と1976年生まれの原田麻魚からなる建築家ユニット。建築のみならず家具やインテリアなどさまざまな分野で活躍しています。「桜の花弁が風に舞う様」その瞬間を固定したかのような、磨き込まれたステンレスプレート製のベンチ群。座面は桜の枝葉や木漏れ日を写し取ります。桜の印象の中を浮遊するような特別な経験が生まれるでしょう。

### ジャウメ・プレンサ



作品イメージ画像《EVEN SHETIA》

1955年スペイン生まれで、スペインを代表するアーティスト。鉄や岩、ガラスなどの素材に、文字や文章を用いて独自の空間を構成する作品や照明を使用した作品を制作しています。パリ国立オペラ座の舞台美術も手がけるなど、ジャンルを超えて世界的に活躍しています。アート広場では世界の起源を表現した光と岩を使った神秘的な空間をつくりだします。

### リュウ・ジャンファ



作品イメージ画像©劉建華

1962年中国生まれで、中国現代美術を代表するアーティスト。幼少の頃から陶磁器に親しみ、景德鎮陶瓷学院を卒業。独自の鑄造技法により、本、ぬいぐるみ、道具、靴、帽子、鞆、枕など日用品を白磁やFRPによる彫刻へと転化させます。官庁街通りに枕の形をしたベンチを置き、「夢見る空間」を生み出します。

### ライラ・ジュマ



作品イメージ画像©Layla Rashid

1977年アラブ首長国連邦生まれ。アートのみならず建築も学んだジュマは、人の知覚に訴えかける構築的な作品を制作しています。設置される作品は《worms (虫)》というタイトルですが、虫の形をしているだけでなく、「どこにでもいる」「道でよくみる」ということも意味しています。